

国境を越えた友情と愛

団長

浮金中学校長 小野 匡之

ニューヨーク郊外のグレンロック町との交流事業である「中学生の翼」の引率者として、町内11人の中学生と10日間にわたって行動を共にしてきました。

今年第20回目という節目の年であり、宍戸町長も期間途中まで随行してくれたということもあって、当地では、パンカレン町長をはじめ、町を挙げて熱烈な歓迎をしてくれました。「飛行機に乗るのも初めて」というのがほとんどの中学生にとって、現地での生活は、当初、戸惑いの連続でした。しかしホストファミリーの温かさに触れるうちに緊張がほぐれ、時間の経過とともにたくさんの笑顔が見られるようになりました。

自由の女神や国際連合本部の見学、ミュージカル鑑賞などと併せて、団員たちの今後の人生に大きな影響を与えるすばらしい経験となったことは疑う余地ありません。

旅程後半のヒルトップキャンプ場での生活も大変充実していました。水上スキー、アーチェリー、乗馬、カヌー

など、日本ではなかなか体験できない活動を思う存分満喫することができました。またキャンプに参加している世界各国の子どもたちやスタッフたちと楽しく交流できたことも、団員11人にとって大きな収穫だったと思います。

言葉や生活習慣が違って人間は皆同じであること、友情や愛情に国境は無いことなど、団員たちは10日間の体験を通して数多くの大切なことを学び取ることができました。

関係するすべての皆さんに感謝申し上げ、報告とさせていただきます。

▽自由の女神で



△ホストファミリーのお母さんと(左)

小野中2年 有村 雄飛

▽キャンプ場でゴーカートに挑戦



△クリスティン先生、ホストファミリーと(右)

2012年夏、ぼくたちはアメリカに向いました。ホストファミリーの方たちと出会った時はとても緊張しました。特に英会話ができるか不安でしたが、話しているうちにだんだん心が通じ合えるようになってきました。キャンプ場に行く子どもたちがみんなフレンドリーで驚きました。食事は多くにはあまり合わなかつたけれど、たくさん経験と思い出をつくることができました。

アメリカに行かせてくれた両親、地域の方々本当にあり

がとうございました。今後もっと勉強して自分が体験したアメリカに負けない日本をつくっていききたいと思います。

小野中2年 松本羽也人

▽送別会でホストファミリーと(右端)



△グレンロック町の警察署で(右)

飛行機に乗ったのは初めてでも緊張しました。グレンロックに着いて歓迎会になり、その時初めてディクソン家と出会いました。それから、家族の皆さんにアメリカの食文化、生活文化をたくさん教えてもらい、とても良い思い出になりました。後半のキャンプでは、日本

では絶対に経験できないような体験がたくさんできました。また多くの友達ができました。アメリカでは日本との文化が異なり最初は戸惑ってしまうことがよくありました。

反省点が一つあります。それは、もっと英語を勉強しておけば良かったと思ったことです。良い研修になりました。

小野中2年 郡司喜和子

▽キャンプ場でマウンテンバイクに挑戦(手前)



△自由の女神になったつもりで(左)

私にとって、異国へ行くというのは、初めての経験でした。私は「文化の違いを学ぶ」ということが一番の目標でし